

第41回日本腎臓学会西部学術大会 男女共同参画委員会特別企画パネルディスカッション  
「腎臓学の魅力を語る～キャリアプランとともに～」 平成23年9月30日

# 腎臓学との出会いとキャリア形成

国立循環器病研究センター

生活習慣病部門 高血圧・腎臓科 医長

中村敏子

# 職歴など

年月	職業	出会い
1975年	大阪市立大学入学	
1981年	同卒業、大学病院・研修医(第1内科)	膠原病
1982年	大阪市立大学大学院入学(薬理学)	薬理学、レニン、ナトリウム利尿ホルモン、高血圧自然発症ラット
1986年	同修了、医学博士取得、大学病院・研究医(第1内科)	高血圧、腎移植
1987年	淀川キリスト教病院・内科医	血液透析
1988年	メレル・ダウ研究所(フランス)留学	ヨーロッパ、エンドセリン
1990年	大学病院・研究医(第1内科)、辻病院・内科医	結婚、妊娠
1992年	産後9ヶ月休職し、非常勤で復帰	出産
1993年	国立循環器病センター・内科医	二次性高血圧、血液透析、循環器疾患、病理学
2004年	同・医長、現在に至る	

# 医学生時代;1975年～1981年

- 優秀な同級生・先輩達の中で、自分の存在感の薄さを実感。自身を初めて客観視。
- 比較的女性の多いクラスで、明るい人が多く、過ごしやすかった。現在も同期会を毎年行っており、貴重な人的財産である。
- 私にも私にしかできない事がきつとある、桜は桜、梅は梅であり、自分にも自分に合った花が咲くはずと肯定的に思うようになった。
- 生命に深く関わる診療科として、内科を志すようになりました。

# 内科に入局の頃;1981年

- 診療科を選択する際に、男性と同様の機会は与えられていない、均等ではないと感じた。
- 内科系は女性に来てほしいとは思っていないが、必ずしも拒むものではないという立場。外科系には、ほとんど門戸は開かれていなかった。「女医さんは変な人が多い」などとの偏見的発言も聞いた。
- ドアを開ける**勇気**、**愛嬌**、**まじめ**に取り組む事は、大切と感じた。
- 重症の**膠原病**患者を担当し、**腎臓病学**の**厳しさを**知り、**畏れを感じながらも興味**が湧いた。

# 薬理学大学院;1982年～1986年

- 学位を取る事に執着していた訳ではないが、医局に残って臨床を続けるよりは、どちらかというと困難な方向であり、挑戦するという意識を持って、大学院に進学。
- 実験で高血圧自然発症ラットを用いたり、レニン・アンギオテンシン系薬剤の発展や心房性ナトリウムペプチドの作用を検討する現場に遭遇し、高血圧学・腎臓学に興味を持つようになりました。
- 薬理学教室という伝統もあり、優秀な人材！を多数輩出しているところで、学ぶ事ができた。先輩・後輩にも恵まれた。その人間関係は現在も続いていて、人的財産となっている。

# 勤務医時代;1986年～1988年

- はじめに属した高血圧グループになじめず、腎臓・膠原病グループに入りなおし、受け入れてくださった先輩達に感謝。
- 一般内科医として出向予定の民間病院から女医はいらないと断られ途方に暮れたが、すぐに、グループの先輩医師の紹介で、淀川キリスト教病院に腎臓内科医として勤務する事ができ、感謝。多忙であったが充実、慢性腎不全、血液透析療法も経験。
- しかし、国際高血圧学会などでの発表を経験し、もう少し研究もしてみたいと思った。
- 大学院の恩師の勧めで、留学を決意する。

# 留学時代;1988年～1990年

- ここまでが人生の1学期とすると、カラフルな人生の夏休み時代。
- 経済的にも恵まれ、人柄の良いボス、安全な街、各国の研究者と過ごす事ができた。エンドセリンの生体反応を検討した研究もAm J Physiol に掲載。
- 日本では「30歳を過ぎていて、女性として終わった」と言われたが、フランスでは何歳になっても女性は女性である事を実感した。また、東洋人は世界標準から見て、比較的若く肌も美しい事を知った。
- 昭和天皇崩御・天安門事件・東西ドイツの統一を、フランスで経験できた事は、いろいろな事を考える良い機会となった。

# 結婚・妊娠・出産・休職・復帰：1990年～1993年

- 帰国後、**結婚**。内科の医局からは「やる気がない、伊藤先生は終わった」と言われた。研究内容も、基礎的で継続できなかった。結婚するので、今まで通りに働き、研究する事は無理と思った。
- 民間病院に 常勤の一般内科医として勤務、**妊娠・出産**し、一旦休職。9ヶ月後に、外来で復職するも仕事の内容は満足感に乏しかった。
- 薬剤師の友人が情熱を持って働く様子を聞き、**私らしくがんばろうと発心**。子供も健康で家族の応援もあり、常勤医としての**復帰を決意**。教授に相談に行ったところ、現在の職場を紹介してもらった。

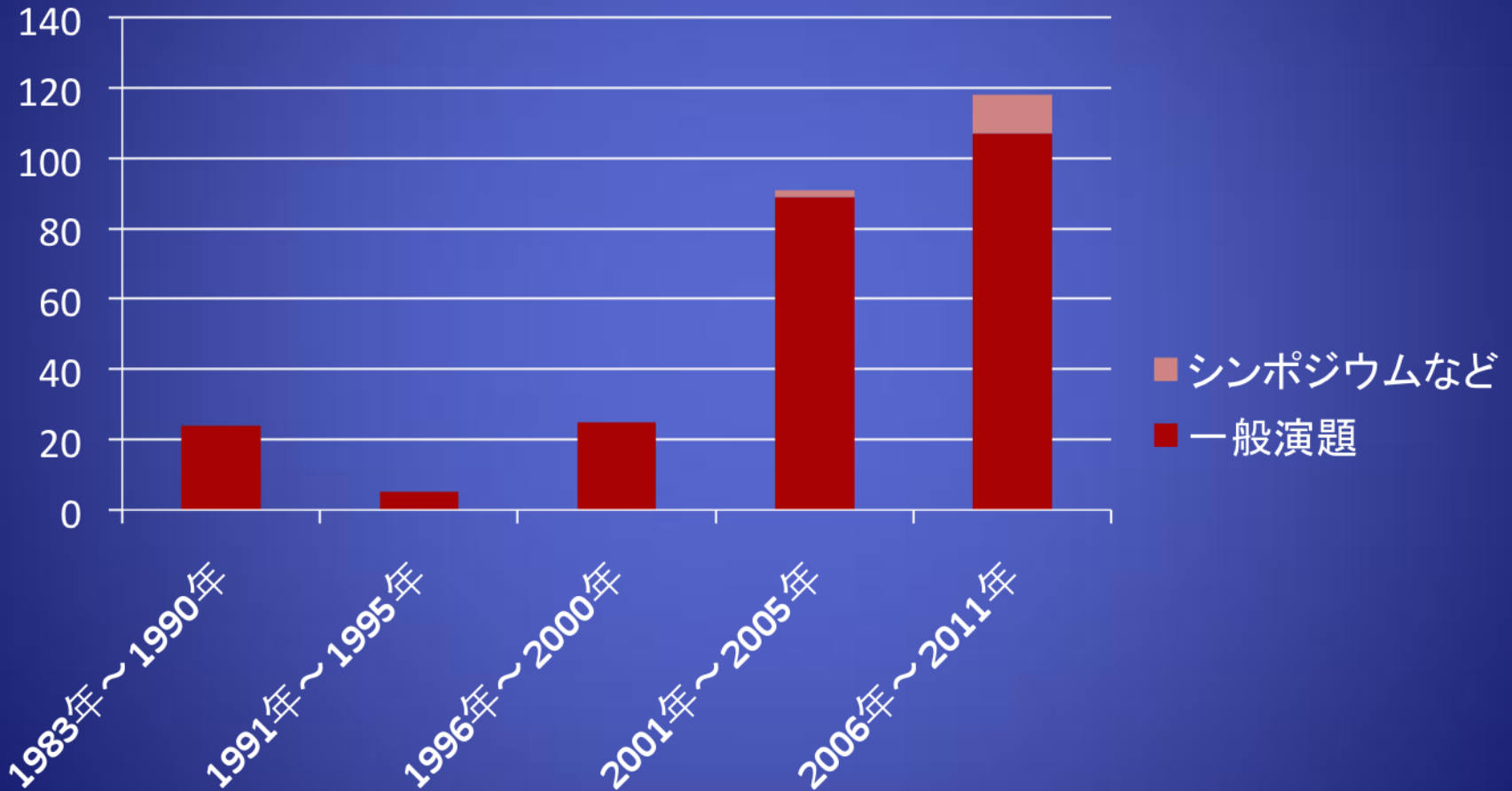
# 国立循環器病研究センター：1993年～現在

- 部門は高血圧・腎臓部門。教授も複数輩出。優秀な人材群の中で、存在意義に悩みながら、良い意味で刺激を受けた。徐々に臨床研究を行い、現在も発展途上。高血圧・腎疾患のみならず、多数の循環器疾患を経験し、臨床医としても成長したかも？
- 2004年に医長、2006年に病棟主任、2009年から透析室主任。院内では、各種委員会の委員多数。
- 2007年位から、女性医師支援関連の会合に参加。2008年、大阪市女性医師ネットワーク役員、2011年から大阪府医師会女性医師支援ワーキングのメンバー。
- 7年間は遠距離通勤、この11年間は職住接近で快適生活。
- 趣味の、書道・合唱も再開。地域活動で生活習慣病セミナーなども開催。

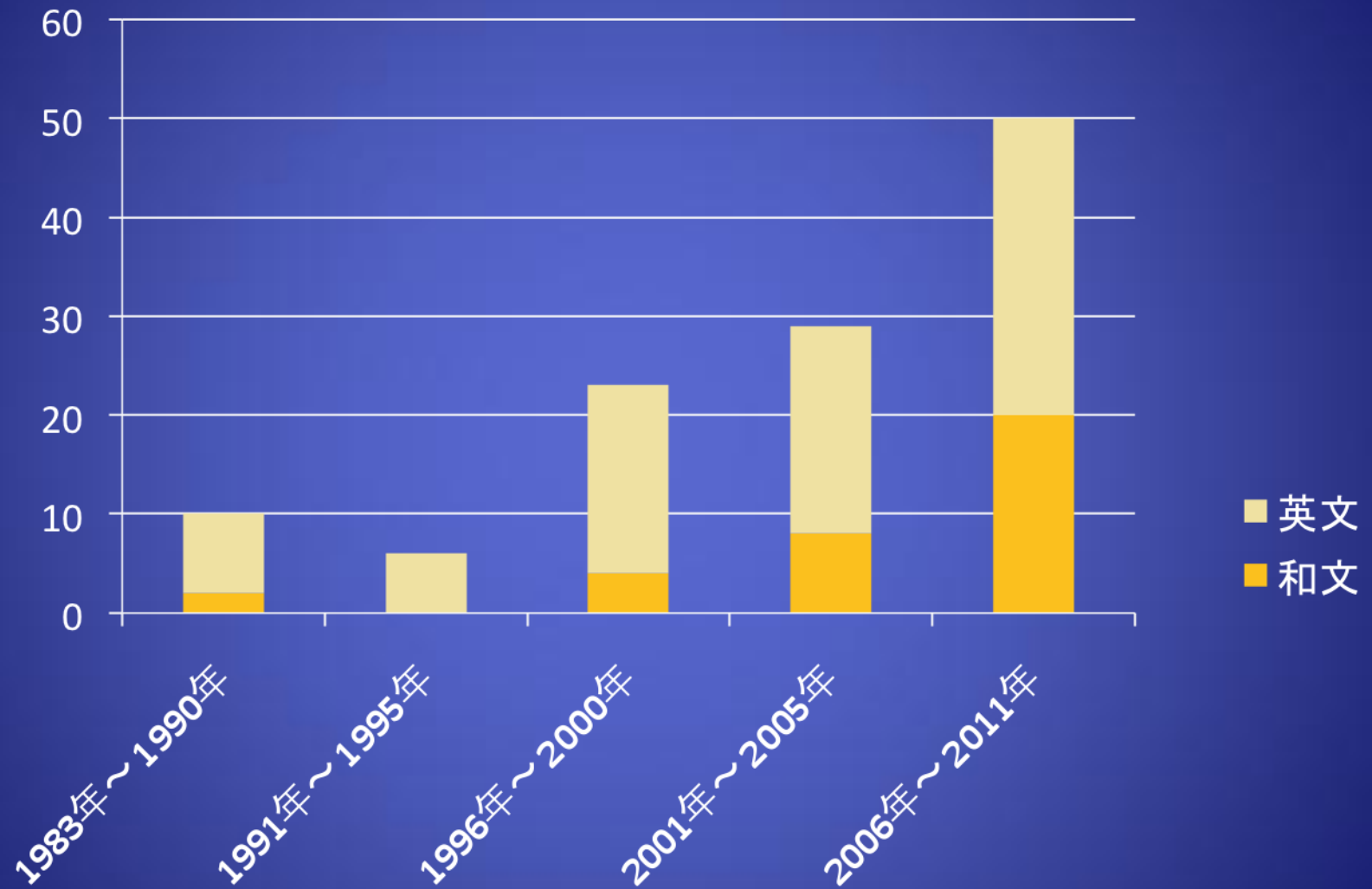
# 子育て・家事の工夫

- 共通している点は、使える事・人は遠慮せずに使った。自分がやらねばと、抱え込まないようにした。
- 子育て; 夫、義父母、保育園(無認可、認可)、学童保育、親戚、知人、お手伝いさん、ベビーシッター
- 家事; (夫)、義父母、親戚、知人、お手伝いさん、家事代行業、生協や百貨店の食材宅配サービス

# 研究成果：学会発表



# 研究成果：論文



# 資格取得への挑戦

	内科 学会	腎臓 学会	高血圧 学会	透析医 学会
入会	1981年	1988年	1984年	1987年
認定医	1988年			
専門医		1994年	2010年	1997年
指導医		2000年	2008年	2001年
評議員		2006年	2006年	
委員など		2009年に専門 医試験症例評 価委員	2013年の高血圧学 会・事務局長	

2002年 日本循環器病学会 入会  
 2004年 脈管学会 入会  
 2008年 未病システム学会入会

# (臨床)研究の醍醐味

- 基礎研究を行った経験がある為、実験系やデータの出し方がわかる場合があるので、論文などで示されたエビデンスへの**理解が深い**。
- 臨床研究する中で、疾患への**知識や理解が深まり**、実際の患者さんを前にした場合も**自信**を持って対応できる。
- 疾患と各種危険因子の間に、今まで気づいていなかった関連性を見いだした時などには、**学問的喜び**を感じる。

# 今の研究テーマ

- 循環器疾患患者の腎血管障害と腎実質障害
- 慢性腎臓病：高血圧、疾患管理、予後
- 透析導入患者：病態、治療、予後
- 透析患者の循環器疾患
- 心筋シンチを用いてCKD 患者の冠動脈疾患を検討するJACCESSIII研究のプロトコル委員として、実際の解析を担当中。
- 今年の学会発表：ERA-EDTA, 腎臓学会、透析医学会、心臓病学会、高血圧学会、未病システム学会など

# 現在、思う事

- 他人との喧嘩は多くはなかったが、自分を卑下する気持ちや、弱気との戦いは多かった。
- 目の前の山から逃げないように努力してきた。
- 「足下を掘れ、そこに泉あり」と考えて行動してきた。
- 最近では、患者さんから学ぶ事が多くなってきたように感じます。
- 医者は大変な仕事ですが、尊くするも俗にするのも、自分だと感じています。

# 若き腎臓内科(女)医の皆さんへ

- 素晴らしい自分を肯定して、もっともっと素晴らしくなっていきましょう。
- 良き友達、少し年上の相談相手を持ち、できれば後輩にも接していく中で、更に成長できます。そして、幸福になってください！
- 男女共同参画の活動が、その一助になれば嬉しいです！！
- ご清聴ありがとうございました！